

2024年1月11日

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「生物多様性のための30by30アライアンス」

および「環境パートナーシップちば」へ参加

～生物多様性保全に向けた取組みの強化～

株式会社 千葉興業銀行(頭取 梅田 仁司)は、生物多様性保全に向けた取組みとして「生物多様性のための30by30アライアンス」へ参加するとともに、一層の環境活動の推進と充実を図るため「環境パートナーシップちば」へ参加しましたので、下記の通りお知らせいたします。なお、生物多様性のための30by30アライアンスへの参加は千葉県内の地方銀行では初となります。

当行は今後とも、当行の基本的価値観である企業理念「地域とともに お客さまのために『親切』の心で」の実践に向けて、生物多様性保全を含む環境・社会的課題の解決に資する取組みを一層推進し、地域の経済・産業・社会の持続的な発展・繁栄に貢献してまいります。

記

1. 参加表明日

2024年1月4日(木)

2. 参加した各イニシアチブの概要

<p>生物多様性のための30by30アライアンス</p> <p>環境省等が発起人となっているイニシアチブで、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、2030年までに陸と海のそれぞれ30%以上を健全な生態系として効果的に保全することを目指す「30by30」の趣旨に賛同した地方自治体や企業等が参加しています。</p>	
<p>環境パートナーシップちば</p> <p>環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざしています。</p>	

3. 参加の背景、目的

当行の営業基盤である千葉県は、三方を海に囲まれ、ラムサール条約(※)に登録されている谷津干潟や、流域市町数が13にもわたる印旛沼、緑豊かな里山などを有し、多種多様な生物が生息する自然あふれる県です。

しかしながら、近年発生している異常気象や土壌汚染などで生物多様性の損失が進行し、「30by30」の達成が難しい状況となっております。

当行は、「サステナビリティ重点項目(マテリアリティ)3」に掲げる「安心して暮らせる豊かな千葉の実現」への取組みの一つとして、「ちば興銀の森」の森林整備活動や清掃活動など、生物多様性保全に向けた取組みを進めておりますが、より一層取組みを強化するため、生物多様性保全に寄与できる2つのイニシアチブへ参加することといたしました。

※ラムサール条約：国際的に重要な湿地およびそこに生息・生育する動植物の保全を促進するための条約。

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」で、1971年2月2日にイランのラムサールで開催された国際会議で採択されました。日本では2021年11月時点で53箇所登録されており、千葉県では谷津干潟が登録されています。(出典：「ラムサール条約と条約湿地」環境省ホームページ)



「ちば興銀の森」での森林整備活動や清掃活動の様子（写真上段、下段左）



千葉県の海岸（九十九里浜）

以上